

令和元年度松阪花菖蒲展示会のご案内

2019年6月7日
松阪三珍花保存会

1. 松阪三珍花保存会「令和元年度松阪花菖蒲展示会」

日時 2019年6月12日(水)～6月16日(日) 午前9時～午後4時
(12日は正午から、16日の最終日は午後3時まで)

場所 豪商ポケットパーク(松阪市本町)

展示内容 各種松阪花菖蒲 7号鉢約80鉢

2. 松阪三珍花保存会有志による「松阪花菖蒲展示」

日時 2019年6月17日(月)～6月22日(土)

展示場所 ① 松阪花菖蒲発祥の地 松阪市殿町1249 吉井さん宅

② 本居宣長記念館 ③ 原田二郎旧宅

展示内容 各種松阪花菖蒲 7号鉢5～10鉢

(展示日時、時間、展示内容は展示場所により異なる場合が御座います。)

松阪花菖蒲 (Matsusaka Iris)

松阪花菖蒲は一般には伊勢花菖蒲(伊勢系古花)と呼ばれ、江戸系花菖蒲、肥後系花菖蒲と共に日本を代表する古典園芸植物の一つです。

松阪花菖蒲の起源は、松坂城下・殿町に住む徳川紀州藩士であった吉井定五郎(1776～1818年)がノハナショウブから品種改良したのが始まりと伝えられています。子息吉井政之助(二代目定五郎)および孫の吉井吉之丞が更に多くの品種を作出した。その後、同町の野口才吉、新座町の長林堅三郎等に分譲され、また久保町の乾達二、松阪の服部栄次郎、津の伊関健次郎、吉川万吉等が栽培、品種改良に努めた。岡村金蔵は、長林堅三郎が保存した松阪花菖蒲を引き継ぐとともに、1932年(昭和7年)に伊勢(松阪)花菖蒲の来歴、品種、栽培法等に関する総説を「実際園芸」に発表した。また、乾達二歿後、久保町の青木清次郎が全部引き継ぎ戦中・戦後の厳しい統制の中、品種保存に情熱を傾けた。戦後、三重大学の富野耕治博士らにより本種の紹介や研究が精力的になされ、更に新花も多く作出された。1952年(昭和27年)に三重県教育委員会により伊勢花菖蒲として伊勢菊、伊勢撫子として、三重県の天然記念物に指定されました。1971年(昭和46年)1月に松阪三珍花の会(現、松阪三珍花保存会)が発足し、毎年6月に昨年までは旧松阪公民館で、現在では豪商ポケットパークで松阪花菖蒲展を行うなどの活動を続けています。

以下に松阪花菖蒲の特徴を示したので、その繊細な美しさをお楽しみ下さい。

- ① 三英咲で、三枚の弁(外花被)は縮緬地の薄弁で大きく発達し、よく垂れるものを優良品種とする。
- ② 内弁(内花被)は、立ち鉾となり変化を添える。
- ③ 花芯(雌蕊)の先端は蜘蛛手が発達し、花姿に優艶な趣を添える。
- ④ 花芯は太く短く、葉とほとんど同じ高さで、花と葉の調和がよく取れている。
- ⑤ 葉は厚く広幅で剣状に直立し、葉面に数条の縦筋がある。
- ⑥ 花の色は純粋で明るい品種が多く、開花後時間の経過とともに、花形・花色が変化する。
- ⑦ 普通の品種は染色体数が24であるが、25という異数体品種も存在する。
- ⑧ 花茎は分枝しない。

松阪三珍花のホームページ (<http://www.matsusaka-sanchinka.jp/>) をご覧ください。

《お問い合わせ先》 松阪市幸公民館 電話 0598-23-9549